

8 アジアの学生が建築で国際交流

26

地元材を使ってオブジェを制作

建築を学ぶインドやネパールなどアジア12カ国の大学生24人が、河和田地区に地元材を使って巨大なオブジェ3点を制作しました。学生は8月20日から9日間河和田に滞在し、「人と人、人と環境が対話をするための舞台」をテーマに3班に分かれて1つずつ制作しました。地区の公園の一角に設置した木製の壁は、越前漆器の木地師からもらった杉の廃材を活用し、案内板やベンチと一体感を持たせて空間に調和した横長のデザインになっています。作品は9月17日、18日に地区で開催された「河和田くらしの祭典」で展示され、訪れた人たちの目を引いていました。



公園の空間の調和を意識した横長のオブジェ



到着後、健康チェックを受ける小浜市の住民

8 原子力災害における広域避難者の受け入れ訓練を実施

27

国、県が広域避難を含む原子力防災訓練を開催

この日実施された訓練は、若狭湾沖で震度6以上の地震が発生し高浜原発で放射性物質が放出する事故が発生したとの想定で実施。同原発から30km圏内に位置する小浜市では、今富地区など5地区から住民107人がバス5台に分乗し、安定ヨウ素剤を受け取りスクリーニング（放射能汚染）検査を受けた後、避難所が設置された吉川小学校体育館に広域避難をしました。避難所到着後、市職員や地域の防災士および防災リーダーらが参加者の誘導や受付、健康チェック、支援物資の配布など迅速に対応していました。参加者は、段ボールで作られたベッドやサポートマットなどで避難所生活を体験していました。

9 メッセージをHANABIに乗せて

4

色とりどりに大輪2000発

さばえの秋の風物詩「さばえ秋HANABI」が、この日夜有定橋付近の日野川河川敷で行われました。市民有志約20人でつくる運営委員会が主催し、県内外の60組から寄せられた家族や恋人に向けたメッセージとともに2000発の花火が打ち上げられ来場者を楽しませていました。河川敷に設置されたスクリーンには、家族や友人などへの思いが込められた文章や熊本地震の被災者から支援の感謝を伝えるメッセージが一つ一つ映され読み上げられました。来場者は静かに耳を傾けながら、夜空を彩る花火を見上げていました。



夜空を彩る秋HANABI



焼き鳥の食べ比べを楽しむ若者

9/10

9/11

食欲の秋、焼き鳥で満喫

『さばえ焼き鳥合衆国』西山公園で開国

住民有志らでつくる実行委員会が企画し、食の一大イベントとして人気を博し今年で第6回。市内外の焼き鳥専門店や居酒屋などの屋台27店が芝生広場に軒を並べました。ヨサコイや太鼓のステージイベントも行われ会場が盛り上がる中、各店から漂う焼き鳥の香ばしい匂いに誘われた来場者たちが広場内に長蛇の列を作り、モモやナンコツ、セセリなど種類豊富な焼き鳥の食べ比べを楽しみました。

また、同公園では県内外のクラフト作家が集う「CAVASABA さばえクラフトマーケット」も開かれ、手作り雑貨を求める女性らでにぎわっていました。

※今月号の表紙は、皆さんから応募いただきました作品の中から「秋桜（コスモス）」に決定しました。